



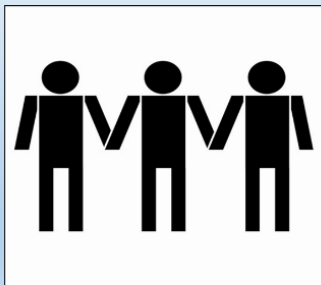
新年あけましておめでとうございます。本年も球磨工生の学びが、より充実するような情報やアイデアを提供するべく、教務だよりを執筆いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

皆さん、経済産業省が提唱している社会人基礎力をご存じですか？インターンシップに行った2年生や、もうすぐ社会人となる3年生は聞いたことがある言葉ではないでしょうか。「社会人基礎力」とは、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力(12の能力要素)から構成されており、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」とされています。今回は、それら3つの力のひとつ「チームで働く力」にスポットライトを当ててみましょう。社会の一員になるためには、まずは仲間と一緒に成果を出すことが求められます。

人は一人では生きていけませんし、一人で行くことには限界があります。チームで働くときには、仲間を助けたり、逆に助けられたりしながら、よりよいチームになるための意見交換が大切です。実習や学校行事で「発信力・傾聴力・柔軟性」を少しずつ身につけましょう！また、チームにはいろんな人がいるので誰が欠けても上手いきません。お互いが働きやすいようにルールや約束を守るのです。ゴミ出しのルール、提出物の期限を守るなどは「規律性」につながります。そして、いつでも力が発揮できるよう心と体を整えておくことも必要ですね。だから、簡単に休まないように健康管理を継続することと、落ち込んでモチベーションを保つためにストレスを解消する休み方が大切なのです。さあ、三学期から新たな気持ちで学校生活を充実させましょう！

『チームで働く力 (Teamwork) 』

～多様な人々とともに、目標に向けて協力する力～



- 発信力**
自分の意見をわかりやすく伝える力
- 傾聴力**
相手の意見を丁寧に聴く力
- 柔軟性**
意見の違いや相手の立場を理解する力
- 状況把握力**
自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力
- 規律性**
社会のルールや人との約束を守る力
- ストレスコントロール**
ストレスの発生源に対応する力

ONE TEAM

皆さんはこの言葉を耳にしたことがあるでしょうか？

日本ラグビーが史上初のベスト8進出を果たした、ラグビーワールドカップ2019の日本代表を示す言葉ですよね。W杯時の日本代表は、総数31人のうちのおよそ半数を占める15人が外国人という多国籍チーム。生まれた国も育った文化も異なるさまざまな選手たちをひとつにまとめ上げるために、ジョセフ氏はこのスローガンを掲げました。

皆さんは、いつか社会へ飛び立ちます。仕事では、「複数のメンバーでひとつのチームを組み、プロジェクトを進めていく。」というのは当たり前の光景です。しかし、人間の性格や考え方は、各々でまったく異なるもの。いろいろな人が集まった結果、意見や主張が食い違ってチームが機能しないということも珍しくありません。あるいは、メンバーそれぞれの役割分担が不明確なため、お互いに遠慮し合っただけで個々人の能力が十分に発揮されないなんてことも…。

優れた組織、優れたチームは、各々のメンバーがリーダーシップを発揮して、仕事を「自分事」として捉えています。「ほかのメンバーに任せておけばいいや」「リーダーに頼っていいや」というマインドでは、チームパフォーマンスが上がっていかないのも当然です。

3MA担任・野球部監督 横馬場 徳貴

然です。したがってチームリーダーは、各メンバーがリーダーシップを発揮できるような土壌を作り上げなければならないのです。全員がリーダーシップを発揮し、常に自分なりの意見や考えを見せる必要があります。そうすれば、各メンバーには、自分の仕事に責任を持って取り組む意識や「自分はいま、このチームの中でこのチームのために動いているんだ」という感覚が生まれます。これがチームの一体感醸成につながっていくのではないのでしょうか。

私が思う『ONE TEAM』…ハードな練習を重ね、苦楽を共にした仲間との時間の積み重ねが、気がつけば「ONE TEAM」となったのではないのでしょうか。その過程には、様々な対立や衝突があり、その都度、ミーティングや話し合いを重ね乗り越えた結果が史上初のベスト8の偉業につながったと。そして、自分の役割さえ果たせば、きっとまわりはやってくれる。そういう人間関係ができれば、能力うんぬんじゃなく、絶対上手く回ると信じています。組織の中で自分がやるべき仕事を明確にして、それ以外の仕事は仲間がやってくれると信じている、これこそが「ONE TEAM」の本当の意味だと私はそう信じています。

“全員が主役であり、全員が脇役”

「チームで働く力」について考えてみる

「人間は、ひとりでは生きていけない」とよく言いますが、その通りだと心から思います。それは、私自身も今までにたくさんの人に出会い、その支えの中で生きましたし、今も生きていますからです。それを仕事に置き換えてみても同じことが言えます。「チームで働く力」は、社会人に求められる重要な資質であり、その重要性は今後ますます高まっていくと断言できます。

私は、「学校は小さな社会」だと思っています。その中で生活する生徒の皆さんには、「チームで働く力」を伸ばすためのチャンスがたくさんあります。今までに私が出会い、チームについて考えるうえで大切にしている言葉とその解説を記しますので、何かのヒントになれば幸いです。

「ベクトルをそろえる」

あるクラスの学級訓より。チームがその力を発揮するために大切なのは、明確な目標を持ち、共有すること。目標を持たない集団は、チームではなくグループでもなく、ただの群れに過ぎない。

「チームを潰す個人プレーは駄目だけど、個人を潰すチームプレーはもっと駄目」

私が高校時代に所属した部活動内での合い言葉。他を認めることで自分のすべきことを認識し、その責任を果たすことでチームは成長することを学んだ。

「最高のチームになれたのは、最高のライバルがいたから」

準優勝に終わった体育大会後に、ある群長が放った一言。自群だけでなく他群をも称賛し

た。チームワークには、リーダーがその役割を果たすことが絶対条件だが、リーダーが他群にも目を向け、互いに成長を目指したことで自群に与えた影響は大きい。

「僕にないものは君がくれる。君にないものは僕があげる。二人にないものは一緒に探そう。」

窪塚洋介著「20」より。もとは愛の言葉だが、私がチームで働くうえで大切にしている考え方。違いを認め、補い、ひとりではできないことも一緒にやればできる。それが、チームワークが大切な理由。これが理解できれば「報・連・相」が自然とできるようになる。

「『みんな』という言葉に安心しないこと」

妻が私に贈った言葉。「みんなも〇〇して…」誰も一度は聞いたことがあるはず。責任の所在が、自分ではなくチームの“誰か”になってしまう状況は絶対に避けなければならない。かけ算式に成長できるはずのチームが導く答えは、ゼロにもマイナスにもなる。メンバー全員が積極的に取り組むことの重要性に疑いの余地はない。

「ぼくが目になろう」

レオ・レオニ 作・絵 谷川俊太郎 訳『スイマー』より。この機会に、もう一度読んでみては。本校図書館にもあるそうです。

建設工学科 高松 孝規

1月の行事予定表

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
6	7	8 始業式(服) (検)2学期まとめ 月曜⑤⑥授業	9	10	11	12
13 成人の日	14 (検)英語	15 建築科木育班交流 課題研究発表(E)	16 郷土料理講習会(3A)	17 郷土料理講習会(3E) 情報技術検定	18	19
20 (検)数学[2年のみ] 郷土料理講習会(3MA) ⑤⑥修学旅行事前指導	21 修学旅行(1年) 郷土料理講習会(3C)	22 修学旅行(1年) 郷土料理講習会(3MB) 課題研究発表(A)	23 修学旅行(1年) 課題研究発表(MA・MB・C)	24 修学旅行(1年) グラフィック検定	25	26
27 (検)国語	28 学年末考査(3年)	29 学年末考査(3年)	30 学年末考査(3年) 企業見学(2E)	31 金曜④⑤、大掃除 【午後：生徒は家庭学習】	1 入試前のため 校内立入禁止 城南地区駅伝大会	2 入試前のため 校内立入禁止